

優 秀 賞

明日の日本社会を考える

中札内中学校一年 桃井 二胡

皆さんは、男女共同参画を知っていますか。ウィキペディアによると、「男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」のことらしいです。しかし、現実はどうなっていないのではないのでしょうか。

例えば、私が思う男女共同参画になっていない分野は、国会議員です。

二〇二一年の女性率のデータでは、衆議院が九・七％。参議院が二三・一％。総合で一四・三％となっています。この政治のジェンダーギャップ指数は、一五六カ国中の一四七位です。それに対して、世界一位の国のアイスランドでは総合で約四〇％が女性議員です。

どうして、日本は女性率がなかなか増えないのでしょうか。

それは、昔ながらの「土着権力」が幅を利かせており、いまだに「女は政治に口を出すな」という雰囲気根強く残っていることや、女性率が本当に少ないため、「超少数派」としての既得権益を守るた

め、ライバルを増やすようなことはしないためだそうです。

しかし、女性率を上げないとうなるかというところ、例として三つあげてみます。まずは、賃金の格差が広がります。次に女性に対するハラスメントが起こります。そして、国の政策がいきづまります。つまり、柔軟性のない男性視線の政治しかできなくなってしまう。

そうならないために、いま国がやろうとしているのは、「クォーター制」です。「クォーター制」というのは、格差是正のためにマイノリティに積極的に割り当てを行うことであり、政治分野におけるジェンダー・クォーターとは、議会における男女格差を是正することを目的とし、性別を基準に両性の比率を割り当てる制度のことです。

これにより、少しは女性の意見も反映されるのではないのでしょうか。

今回このテーマを考えるにあたり感じたことは、日本は世界と比べてこんなにも男女間格差があることを知って、残念に思いました。これからは、ジェンダー平等に興味を持ち、色々な分野で問題点を考えていきたいと思います。